

秦野支援学校

学校だより



令和 8 年度 第3号
令和 8 年9月30日発行

編集部連絡先
〒257-0025 秦野市落合 500
TEL 0463(81)1429 FAX 0463(83)4118
ホームページ
<http://www.hadano-sh.pen-kanagawa.ed.jp/>

夏休みが終わり、長い2学期が始まりました。まだ蒸し暑い日はあるものの、少しずつ秋の気配が感じられるようになってきました。たくさんの赤とんぼが飛び交い、夜には虫の声も聞こえて…やはり、自然豊かな秦野の地は、季節ごとにその時季らしい光景が見られ、心癒されます。

私は、秦野市の隣の中井町で生まれ育ちました。秦野に負けず劣らずの大自然に囲まれて、鳥の声しか聞こえないようなのどかなところ です。中井町の実家では、大きなネコ（体重6kg!）を飼っています。そのネコが窓から外を眺めながら、電線に留まっている鳥に「にゃにゃにゃ」と話しかけていることがよくあります。その様子をよく観察してみると、ある種類の鳥にだけ話しかけていることに気づきました。スズメやツバメ、カラスには話しかけないのに、ヒヨドリにだけ話しかけるのです。その声は、優しく楽し気な感じで、聞いているこちらも、なんだかうきうきしてしまいます。なぜヒヨドリにだけ話しかけるのだろう…と不思議に思い、ネコと同じ目線になって、外を観察してみました。すると、特定の場所に留まっているときだけ話しかけているようなのです。このことにも、ネコなりの意味があるのだと思いますので、ネコの気持ちがわかるようになればいいな、などと考えます。

こんなふうにネコと過ごすのんびりとした時間の中でも、思いがけない発見がありました。不思議だなと思うことをよく観察してみたり、いつもと違う視点で見たりすることで、それまで気づかなかったことを見つけられたり、もっと知りたい!と思うきっかけになったりすることがあるものですね。秦野支援学校のみなさんも、日常にかくれている「不思議の芽」「楽しみの芽」にたくさん出合って、わくわくするような毎日を過ごしてくれることを願っています。

教頭 相原 千絵

本校では、学習活動をより充実させるために ICT を活用しています。タブレットやパソコンを使って調べ学習や資料の閲覧をおこなうほか、写真や動画を記録して学習の振り返りにも活用しています。また、オンライン会議システムを利用した交流学习や情報共有もおこなっています。ICT の活用により、児童・生徒一人ひとりの学びの幅を広げるとともに、分かりやすく主体的な学習につながるよう取り組んでいます。今後も効果的な活用を進めていきます。

……なんと、ここまでの文章は生成 AI を活用して、約1分で書いたものです!少し硬い印象はありますが、違和感ありませんよね。もちろん指示は人間が出していますが、内容に間違いありません。ICT の進歩には驚くばかりです。本校では、そんな機器等の発展スピードに対し教職員自身がアップデートするために、夏季休業中に ICT 係主催の教職員向け活用研修会を実施しました。上手に活用すれば児童・生徒の学びをより豊かなものできるはずです。今後も ICT の効果的な活用に向けて継続的に取り組んでいきます。

サポート・スタディグループ ICT 係

7月16日（木）から7月22日（水）まで、本町公民館において作品展示をおこないました。各部門課程の児童生徒による彩り豊かな作品が並び来場者からは、「子どもたちの頑張る様子が伝わってきた」「見ていて明るい気持ちになった」など、温かい感想が寄せられました。

また、7月29日（水）には、横浜市北部地域療育センター作業療法士の松本政悦先生を講師にお迎えし、「子どもの行動の理解と支援のヒント～感覚統合の視点から～」をテーマに公開研修会を開催しました。保護者や地域からも参加があり、総勢152名で、支援の在り方について理解を深めることができました。今後も「児童生徒を地域のフロントへ送り出す」ことを目指して、地域とのつながりを大切にしながら、本校の教育活動を発信していきます。



サポート・スタディグループ 支援連携係

本町公民館作品展示の様子

裏面に続く

いぶき会夏祭りは今年も 100 人以上の参加があり、みなさんのご協力で無事に終了しました ✦ 暑さもあり体育館内での活動に規模を縮小しましたが、一緒に踊ったり、穏やかなピアノの音色を楽しんだり、元気に盛り上がったり、買い物を楽しんだりと様々な活動ができたことと思います。よさこいの猿楽&team 湘南、ピアノの Erain Yoko さん、教員バンドの The Bambi、販売の秦野ワークセンター、進和ルネッサンス、弘済学園デイケアセンター、並びに参加者の皆様、ありがとうございました！

マネジメントグループ 総務係